

キク栽培の計画的な作業実践と育苗技術の向上による新規花き専門農家の経営安定

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

対象は令和4年3月に認定新規就農者として就農され、施設輪ギク(450 m²)と露地小ギク等(2,200 m²)の栽培を開始されました。県内の花き専門農家が減少する中、次世代を担う花き専門農家として期待されています。一方で、苗質の不揃いや適期作業を逃したことにより品質が低下し、令和4年度の販売額は就農計画目標に届きませんでした。そこで、令和5年度は育苗に適した日射や灌水管管理の習得に向け支援を行い、育苗技術の向上が見られました。計画最終年となる今年度は計画的な作業実践に重点をおき、適期作業の意識が定着するよう支援しました。

【普及活動の内容】

まず適期作業の重要性を理解してもらうため、作が始まる前の1月に対象と令和5年作の振り返りをする機会を設け、対象自身に課題と改善策を分析してもらいました。その中で計画的な作業が重要であることを認識してもらい、栽培暦に基づき作業を進めること、市場出荷割合の増加を目指すことを目標として共有しました。



写真1 R5年作の結果についての振り返り

次に計画的な作業実践に向け、作型ごとに栽培暦を作成しました。暦では輪ギクの生育段階と並行して必要な作業を示し、その時期にその作業を行う理由を明記しました。また、全体の作業スケジュールが立てやすくなるよう露地と施設を含めた作業体系図を作成し、品目と作業を月毎に見える化しました。作成した暦・体系図をもとに実際の作業進捗を確認し、計画どおり進んでいない場合は理由を分析して次作の改善に活かすよう、定期的に振り返りの機会を設けました。

【普及活動の成果】

昨年に比べて円滑に作業の段取りを組まれるようになり、作業ミスの減少と管理技術の向上により輪ギクの秀品率は盆作で76%(R5)から95%、彼岸作で10%(R5)から81%、年末作で63%から93%へと上昇しました。収量面では、盆作と年末作で増加したものの、彼岸作では昨年の8割に留まってしまったため、原因を分析し品質・収量の両面で改善を図り、確実な収益の増加と経営安定に繋がられるよう支援していきます。

◎対象者の意見

栽培暦は作業時期の確認をするのに役立っている。巡回もポイントとなる時期に来てもらえるのでありがたい。引き続き支援をお願いしたい。(対象者 H 氏)